

まちづくり横浜の総合化と田村明－研究会 内輪メモ

「都心部高速道路の地下化」検証研究の経緯と準備会メンバーたちの感想など

- 研究会前段の半年、第1回テーマへの手探り
 - ・飛鳥田回想録（内藤恒平さんに勧められて）から、飛鳥田市長を想像する。
 - ・市史資料室紀要2「飛鳥田鳴海対談録」から、当時の市民観や意思決定の様子を知る。
 - ・市大鈴木先生の「横浜都市デザイン(室)40年史」オービストリーを読み、プロジェクト・コントロール・アーバンデザイン3本柱と、鈴木先生の問う「大きなアーバンデザイン」を考える。
- もういちど施策を振り返り、聞いて調べて、「横浜と田村と総合化」を考えよう。
 - ・原点の六大事業から「高速道路の地下化逆転の経緯／その困難さと素早さ」の謎
 - ・行政OBの方達の多くが語り惜んでいる「用途別容積制度をなぜ辞めたか」の謎
 - ・などなど
- 研究会後段の半年、市心部高速道路地下化／かつて聞いていた話の検証をテーマに
 - ・調査季報BN「立神レポート」（漆原さんに勧められて）で、解説を想像する。
 - ・五島さんが「新聞発表記事の時系列」を調べ、疑問点を整理した。
 - ・田口さんが「当時 高速道路担当の立神さまにお話」を伺って、交渉経緯を整理し想像した。
 - ・田口さんが「当時 企画調整担当の長谷川さまにお話」を伺って、交渉経緯を整理し想像した。
 - ・五島さんが「都市計画手続きのベテラン窪田さまを招聘」して、当時の制度運用を類推した。
 - ・たくさんの主体が論理と矜持を持って、群像のようにからみあうプロジェクトの情景が見えてきた。
- 建設省・道路公団・首都高速・市道路局・河川・交通局地下鉄・緑政局公園・企画調整室
 - ・市長・市民団体（伊勢佐木町・馬車道）などの、
 - 多主体それぞれの論理と闘争と合意形成へのプロセス（それぞれの物語り）として見えつつ、
- 状況と情報を徐々に手にしながら、地下化への意思を貫いた飛鳥田市長の役割の重要性。
- 意思決定の仕組み(権力)の起点が建設省のキーマンにあることを、混迷する状況下で見極め、水面下の交渉アプローチを重ねた田村明（と企画調整室担当）たちの、
「状況を造り出して、ことを動かす」骨太な都市デザインのかたち。
- 並列する論理や計画の総合化、それは、
 - ・厳しく言えば、意思決定・権力闘争の結果論としての合意形成
 - ・優しく言えば、このデザイン・ことを動かすデザイン（もののデザインに対して）
 - ・プロジェクト・コントロール・アーバンデザインを総合化する、
田村明さんが体験習得した大きなアーバンデザインであったか。
- それにしても、今回俯瞰できたかもしれないのは、

| | |
|-------------------|----------------------|
| ・道路局ご担当が振り返る物語り | ・田村明さんの強さと優しさの「不思議」 |
| ・企画調整室ご担当が振り返る物語り | ・田村明さんに流れる遺伝、宣教師の矜持。 |
| ・田村明さんが語り記した物語り | ・田村家の聖書読書会の中心に居た情景 |
| ・飛鳥田市長が語り記した物語り | ・プランナー田村明さんを支えた「大切」 |

・・・群像としての多主体の物語りが織りなす地域と計画の歴史
このデザイン、プランニングを動かす人の向こう側に見えるもの・・・
- 第1回研究会の「掘り返し研究テーマ」を、どう構造化抽象化し、総括できるか。
「だから、どうした。何を生かすか。」という学びに、仲間を増やして繋げてゆけるか。
- 次回研究会のテーマに向けて。（皆さまざまのご研究やご発表にも、歓迎と期待を持ちながら）
「用途別容積制度の意味と顛末」をどう学び直すか。を考えはじめています。